

家業手伝い中に10指を切断した12歳の少女が学校に通うことすらできなかった境遇の中で、鉛筆を両手首にはさんで文字を書き出し、人とつながり、現在は2人の子どもの母親にして、大学で人権問題を講義する毎日を送る。こんな半生記『キム・ホンソンという生き方—在日コリアンとして、障がい者として』を大阪市東住吉区に住む在日コリアン2世の金洪仙さんが出版した。

指切断 逆境乗り越え

在日コリアン2世 金さん、「半生記」出版



大学で講義中の金さん

うい)で表現する喜びを覚えた。以降、高槻「CANSAKI」指導員、寝屋川市の「日本語読み書き教室」講師、在日コリアンの運動、識字運動で活躍、2006年から大阪国際大学短期大学部で「人権教育論」の講師を務めている。息子たちへのメッセージである「国籍について思うこと」、上野英信さんとの出会

「若い人にも人権伝えたい」

金さんが半生記を書き始めたのは5年前か、原発事故の経験からだが、1951年生まれで、年齢を重ねる中で、60歳でしなくなった父の年齢を過ぎ、2年前には大好きだった長姉を亡くした。さらに昨年、東日本大震災で、東京電力福島第一原子力発電所が事故を起こし、原発事故の経験から、内容が「半生記」だ。産記」が全体の3分の2を占める。10指を切った。以降、「2人の断する事故から、中学を中退せざるをえなかったが、大阪文学学校は電話06(6581)500円。問い合わせ

「もう待たない」だと思つた。2を占める。10指を切った。以降、「2人の断する事故から、中学を中退せざるをえなかったが、大阪文学学校は電話06(6581)500円。問い合わせ